

# 一海の素敵発見館一

## 福井県海浜自然センター



所在地	三方上中郡若狭町世久見18-2(食見海岸)		
設置年月日	平成11年7月20日		
施設の種別	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	人と自然が共生しやすらぎある県民生活の実現に向け、より一層自然への理解を深めていただくため、本県の豊かな海を知り、体験していただくための施設です。学習、体験、情報収集と提供などの機能を備えており、県民の皆様の自然保護意識の高揚を目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階 延2,122㎡ エントランスホール・体験学習室・スノーケル体験施設・展示室・マリンホール・海のライブラリー・展望デッキ		
職員数	正職員5人、非常勤嘱託1人 アルバイト1人 計7人		

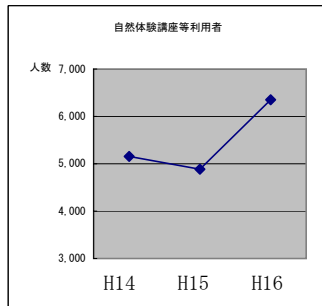
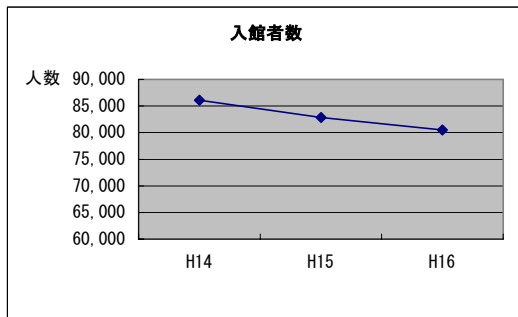
### 利用状況等

	H14	H15	H16
入館者数(人)	86,080	82,831	80,494
自然体験講座等利用者(人)	5,155	4,882	6,349

※自然体験講座等利用者は入館者数の内数

### 利用者負担(利用料金)等

入館料	大人	無料
	高校・大学生	無料
	小・中学生	無料



### 16年度の特徴について

事業実績	海浜自然センターで行っている事業 自然保護思想の普及・啓発事業(スノーケリング、磯観察、海藻おしば等) 開催回数 69回 参加人数 2,125人
	<p>スノーケリング      磯観察      海藻おしば</p>
	展示事業 海の自然と環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示 (ふれあい水槽、リアルタイムスコープ、若狭の暮らし、マリンホール) 3Dシアターと館内見学      79団体      4,117人
	<p>ふれあい水槽      リアルタイムスコープ      若狭の暮らし</p>
	研修養成講座 自然に関心を持つ県民の増大を図る (スノーケル指導者養成講座等) 調査研究事業 周辺の海域調査を実施し観察会等の講座に利用 (藻場調査、生物相定点調査) 資料収集事業 自然に関する標本や文献等、展示学習資料の収集
	利用促進に対する取組み 観光協会と連携して、岐阜県の中学校の体験学習の受け入れを増やしたほか、従来の学校、公民館等に加えて、地域の民宿、ドライブイン等にポスターやパンフレットを配布しています。

### 研究の状況

海浜自然センターでは「食見地区周辺海域調査」を実施しています。

平成16年度

■ [食見地区周辺環境調査\(PDFファイル\)](#)

利用状況の推移	平成15年度は約8万3千人の来館があり、平成16年度最終の入館者は約3%減の約8万人の利用がありました。平成17年度はこれまでのところ天気にも恵まれ、また中京方面からの体験旅行も定着し、順調に推移しており平成14年度並みの入館者が見込まれます。 開館して6年を経過し、自然体験講座等の利用者数は増加傾向にあり、徐々にセンターの存在が浸透してきたものと考えています。
---------	---

# 福井県海浜自然センター(2/2)

行政コスト計算書(平成16年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかかるコスト	人件費	52,876	29.4%
	退職給与引当金繰入	▲ 9,266	-5.2%
	計	43,610	24.2%
物にかかるコスト	物件費	40,042	22.3%
	維持補修費	1,422	0.8%
	減価償却費	67,709	37.7%
	計	109,173	60.8%
その他	公債費(利子)	27,020	15.0%
	その他	0	0.0%
	計	27,020	15.0%
合計		179,803	100.0%

バランスシート(平成17年3月31日現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産		負債	
有形固定資産	1,354,368	固定負債	1,114,575
投資等	0	流動負債	86,105
流動資産	0	正味資産	153,688
計	1,354,368	計	1,354,368

**施設の特徴**  
本県唯一の海中公園(三方海中公園)や若狭湾国定公園の特徴であるリアス式海岸特有の美しさ、磯辺の生物を観察できる近畿自然歩道を周辺に有し、スノーケリングを始めとする自然体験や施設内では若狭の海の歴史や魚の展示や魚にえさを与えたり、直接触れられるなど本県の豊かな海を実体験できる施設として大変好評です。

**今後の課題**  
景観がすばらしいレインボーラインや三方五湖観光にあって、数少ない集客施設としても位置付けられ、最近では観光協会との連携で、民宿、県青年の家等に宿泊した場合の自然体験学習施設として研修、見学コースに組み込まれています。

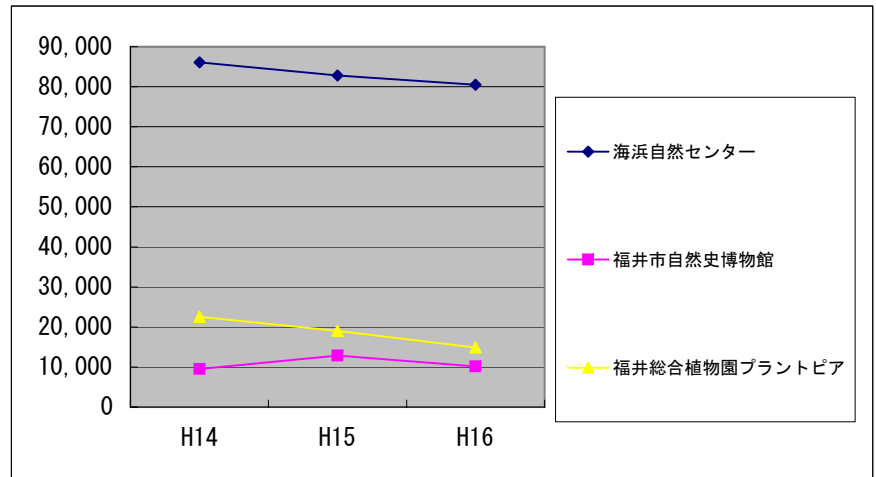
海水浴客の減少等地域の観光客入込数が減少する中、当施設の入館者数も減少傾向にあり、今後は広報のあり方や他施設との連携の強化、エコツーリズム推進といった観点から本県の手・湖のすばらしさをアピールしていきます。

(単位 千円)

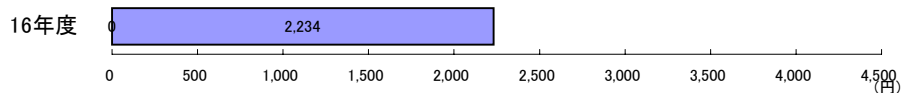
収入	利用料等収入	6	0.0%
	その他収入	405	0.2%
	一般財源	179,392	99.8%

利用料等収入計	6,000 円
利用者1人あたり平均利用料	0 円
利用者1人あたりコスト	2,234 円

自然史系の公立博物館の入館者数比較



利用者1人あたりのコスト負担の状況



バランスシート、行政コスト計算書の特色

物にかかるコストが全体の61%を占めています。その中でも減価償却費が38%、物件費が22%になっています。

人にかかるコスト(人件費)は全体の24%です。

なお、今回が初めて調査・作成した施設なので前年度比較はしていません。

**今後の事業方針**  
17年11月8日に三方五湖が国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録され、地域住民の自然保護に対する関心や行政に対する期待も高まっています。従来からの自然体験講座、自然観察指導者の育成・活用、施設での海の情報提供の充実に加え、三方五湖を活用した自然観察会や環境保全団体、エコツーリズム推進団体への支援を強化していきます。

**取組み内容**  
16年度から開始した若狭地区5施設連携事業(2泊3日の体験学習、国・県・若狭町施設との連携)は定員の2倍を超える申し込みがあり好評でした。また、地元観光協会との連携により、近隣県の学校の体験学習が増加しています。今後とも他の施設、団体との連携を強化していきます。